

学校名 (児童数)	多賀町立大滝小学校 (66名)
--------------	--------------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：犬上郡多賀町川相 568

電話番号：0749-49-0313

【研究の目的、研究内容】

(1) 研究主題

個が主体的に取り組み、豊かな心で自信をもって自己表現ができる子どもの育成
～地域の中で「共に育つ」環境づくりを通して～

(2) 研究主題設定の理由

本校では、「豊かな心を育み、じっくりと考え、たくましく生きる子どもの育成」を教育目標に掲げ、その具現化に努めている。大滝小は、小規模校であり、子どもたちの人間関係が固定化し、既存の相互関係をさらに高めたり変えたりすることが難しく、新たな環境や集団に適応する能力が十分でないことが課題である。

本校は、昨年までの6年間、「音声言語活動と書く活動を通して自分の思いを表現し、伝え合うことのできる子どもの育成」と「話し合いの場を通して、社会の中で生きて働くコミュニケーションの育成」を研究主題として、国語科の授業実践を中心に取り組んできた。また、平成25年より県の学力向上アプローチ事業の指定を受け、書く活動を中心に据えた研究の取り組みをスタートした。結果、少しずつではあるが、自分の思いを豊かに表現するための語彙の習得や文章の組み立て方を学習することで書く活動への抵抗感が少なくなってきた。しかし、基本的な文章の書き方や、特に高学年で参考文献から必要な部分を引用したりする力などが十分ではない。

このような実態から、「個が主体的に取り組み、豊かな心で自信をもって自己表現ができる子どもの育成」という新たな研究主題のもと、今年度より「書くこと」に加え「読むこと」にも重点においた取組とともに、「児童が主体的に取り組む授業力の向上」を目指してきた。さらに、学力向上のために少人数ならではの個々の児童の能力に応じた指導を充実させるよう学校体勢で計画、実行してきた。また、本校独自で実施する大滝タイムや音読集会、百人一首暗唱、漢字検定など充実させることで、児童の意欲と自信を引きだそうと支援してきた。

子どもたち一人ひとりが主体性をもって判断、行動し、様々な活動を通して自尊感情を高め、自信をもって自己表現する力を育成していきたい。

(3) 研究体制

【思考力】情報との関わりの中でそれぞれの意図する内容を正しくとらえ、理解する力。

【判断力】情報との関わりの中で、自分の意見と比較したり、考えを再考したりする力。

【表現力】必要な情報と関わって、話す核などの活動を通して、自分の考えを深めたり表現したりする力。

校長・教頭

校内研究推進委員会

校内研究会

- 「読むこと」「書くこと」に重点をおく
- 「めあて」の提示とまとめによる授業の振り返りの徹底。
- グループ、ペア学習の工夫。
- 内発的・外発的動機付けの研究。

授業研究
授業改善

学力アプ
プローチ

- 学学調査結果をふまえた授業改善。
- 全職員での解析→授業全の意識の向上。
つまづき診断テストの実施。
- 思考過程の分かるノートづくり。
- 家庭学習の充実。○授業の教科化を推進。

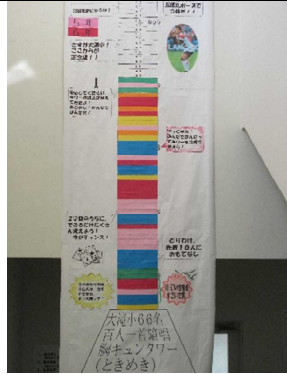
(4) 1年間の主な取組の経過

<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月22日(月) 校内研究会 今年度の校内研究の体制と方針について ・ 6月24日(水) 第1回授業研究会 1年 国語科「おむすびころりん」 ・ 7月27日(月) 夏季校内研究会 1学期の振り返りと2学期の授業研究、授業改善の検討 ・ 10月7日(水) 第2回授業研究会 2年 国語科「お手紙」 ・ 10月21日(水) 第3回授業研究会 5年 国語科「想像力のスイッチを入れよう」 ・ 10月28日(水) 第4回授業研究会 6年 国語科「この絵、わたしはこう見る」 ・ 11月5日(水) 学力向上アプローチ事業に係る校内研究 ・ 11月17日(火) 学力向上アプローチ指定授業・第5回授業研究 4年 国語科「ここが『やまのこ』の良いところ」 ・ 1月27日(水) 第6回授業研究会 3年 国語科 (予定) ・ 2月17日(水) 校内研究会 今年度のまとめと来年に向けて (予定)
--

(5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等(一部)

取組とねらい	方法と成果
<p>校内研究全体を通して</p> <p>確かな学力と伝え合う力を育てる</p> <p>・思考力や判断力を育む授業改善と学習意欲の向上</p> <p>・当たり前のことを当たり前に取り組める学習集団づくり</p>	<p>◆各教科、学年における確かな学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元や授業ごとに「1時間のねらい(課題)」を確実につかませるため黒板に記す。また、自分の言葉でまとめを書いたり発表したりする。 ・活用力を支える基礎的な学力の徹底。 (算数チャレンジファイル、漢字、音読、視写、辞書引き活動、読書、読み聞かせ) ・鉛筆の持ち方、姿勢、発表の仕方、授業の挨拶などの全校統一した取組を徹底する。 <p>◆児童が主体的に取り組むための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な表現活動(百人一首、音読集会、委員会活動、行事) ・授業に話し合い活動を効果的に仕組む。 <p>◆「書く力」「読む力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科における学年ごとの「書く力」、「読む力」を重視した授業改善 ・「書く力」の育成を目指した日々の継続した取組。 ・「読む力」に特化した朝の大滝タイムの取組の充実。 ・多賀町漢字検定に向けての漢字学習の充実。

各学年の実態に合わせた活動を、系統立てて取り組むことを重視して取り組んできた。また、本校の合言葉である「やりきる やりぬく やりとげる」の精神で1つ1つを最後までやり遂げ、達成感をもたせるようにした。今後、更なる取組の継続と徹底が重要である。



全校一斉の取組

方法と成果

具体的な取組事例①

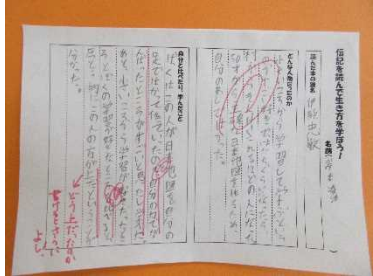
全校一斉の取組
大滝タイム
読書タイム
など

・継続的な取組によって身につける力
・学校全体で取り組むことによる成果
・意欲を高めるための工夫

- ◎朝の10分『大滝タイム』
- ◆メガシャキ音読(前半約5分)
 - ・キーワードは声の張り、リズム、一斉。
 - 月～木曜日は、チャイムと同時に全校スタート。
 - ・古典、漢詩、現代詩、物語を中心に音読する。
 - ・音読用のテキストを全校購入。
 - ・年2回の音読集会で練習の成果を発表する。
(6月、11月に開催、11月は学習参観日)
- ◆能力アップ計算(後半約5分)
 - ・単純な四則計算をすばやく解く。
 - ・十数問ずつ計時をする。約1週間繰り返し同じ問題を行う。
- ◆「読む力」をつけるための取組(毎金曜日10分)
 - ・詩を読んで感想を書く。
 - ・伝記を読んで自分の思いを書く。
 - ・新聞記事を読んで意見文を書く。
 - ・学年に応じた内容で取り組む。
- ◆読書タイム(掃除終了後10分)
 - ・毎日、10分の読書の時間を確保する。
 - ・読み聞かせも適宜行う。
 - ・学年ごとに読書タイムの図書館使用の割り当てを決め、図書館を利用する機会を増やす。
- ◆学習規律の徹底
 - ・学習開始、終了時の挨拶を低・中・高学年で統一する。
 - ・鉛筆の持ち方、下敷きの使用を徹底する。
 - ・発表の仕方や発表で仕様する言葉を全学年教室掲示し、意識を高める。

全校で取り組むことで、言葉に親しんだり、計算力を高めたりする他に、集中力の向上や一体感を味わうなどの効果があった。学習規律は、低・中・高学年で系統立てて行うため、進級しても迷いなく取り組むことができる。



取組とねらい	方法と成果
<p>具体的な取組事例②</p> <p>各学年の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた取組の工夫 ・継続した取組みにより力をつける 	<p>◆ ニュースペーパー一言日記の取組(6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の家庭学習に組み込む。 →記事を自分で探し、要約し、その記事に対する自分の考えを書く。 <p>◆ 伝記を読んで感想を書く。(5年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週金曜日の朝の「大滝タイム」を感想を書く時間とし、それまでに伝記を1冊読んでおく。 ・10分間で、読み取ったこと、自分の生き方に取り入れたいことをまとめ200字程度で書く。 <p>◆ 「組体日記」を書く。(4～6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会の練習期間中、毎日継続して日記を書く。自分のめあてに沿って振り返り、その日の自分の達成度を点数に表す。 ・毎日「組体通信」を発行し、日記を順番に掲載し読み合う。 <div data-bbox="451 757 1002 1037" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>日常生活の中で多くの活字に触れる環境をつくることで、文章を書くことや読書することへの苦手意識が薄れ、漢字への関心が高まり、作文や日記などが長文で書けるようになってきた。</p> </div> 
全校一斉の取組	方法と成果
<p>具体的な取組事例③</p> <p>主体的に取り組む活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成感を味わわせる取組の工夫。 ・自己肯定感を高め、学習意欲を向上させる。 	<p>◆ 異学年との活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高学年の責任、リーダー性、低中学年の関わる力を育てるために仕組む。 →たてわり遊び、全校ウォークラリー、いわな給食など ・子どもたちに「つきたい力」と、子どもがもつ「めあて」を明確化した活動を行う。 →運動会、大滝小まつり、人権集会、6年生を送る会など ・子どもが企画、運営する機会をつくる。 →委員会による集会、大滝座(人権集会)など <p>◆ 大滝っ子算数チャレンジファイルの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習内容の理解の徹底、個々の理解度の把握を目指し、「チャレンジファイル」を使用。 ・冬休みに、1～2学期の既習内容のプリントを持ち帰り、家庭学習する。3学期に担任と共に振り返り、不十分な単元の定着につなげる。 <p>◆ 百人一首の全首暗唱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月に百人一首のプリントを全校配布し、暗唱をスタートさせる。児童会より「全首暗唱」を呼びかけ、学校全体の取組として行う。 ・継続させることによる積み上げが力となり、学年が上がるると暗唱するペースが速くなることが実証されている。 ・校内放送、掲示物などを活用し、児童の意欲を高める。 2月に百人一首を計画し3学期も継続して取り組んでいる。

行事だけでなく様々な活動において、高学年を中心に達成感を感じる子が多かった。教科学習以外の活動が多く、今後行事の精選をしていく必要性もあるが、小規模校ならではの取組として、子どもたちも取り組んできたことに対して誇りをもつことができた。



【研究成果と課題】

(1) 研究成果

教師の意識改革・授業改善

今年度は、「書くこと」に加え、「読むこと」の力をつけるということにも重きを置いて進めてきた。自分の思いを「書こう」という意欲は、年々高まっている。学力向上アプローチ事業を受け、職員間での「書くこと」の意識を統一し、取り組んできた積み重ねの成果であると考え。一方、「引用する」ことや、段落相互の関係を正確に読み取って書くことにおいては課題があることから、「書くこと」と同時に「読むこと」の力が必要ではないかということから始めた。発達段階に応じた力をつけるため、学年に応じた課題を設定し取り組んでいる。また、授業でもつけたい力を明確にして学習を進めている。文章を読み取ったり、自分の思いを書いたりする活動では、ペア学習やグループ学習を取り入れ、意見交流することによって共動的な学びの場を設定した。

3年間にわたり、その学年でも「書くこと」の力をつけることを中心に授業研究・授業改善を行ってきた。学力向上アプローチ事業にかかる研修会を開催することで、授業改善や教員の意識改革につなげることができた。

子どもの意欲の向上

校内研究などで、子どもの意欲が向上する取組について積極的に交流する機会を設けてきた。それぞれの学級で、学習の成果がみられた効果的な方法や、取り組んでいる現状の様子、学級の課題などを話し合い、よりよい方法で進められるようにしてきた。そこで「つけたい力」が明確になったのではないかと考える。また、学習規律の見直しと、「めあて」「振り返り」の活動を取り入れることを徹底して行った。そして、それらを「当たり前のことを当たり前に取り組める」ように進めてきた。

子どもたちの「できる」というスモールステップをあらゆる場面で多面的に作ることで、意欲の向上につながった。

(2) 課題等

アプローチ事業に関わる取組や、校内研究の取組を通し、子どもたちの課題が明らかになり、授業改善も進んできた。しかし、積み上げるにはまだまだ時間が必要である。今後も教師の共通理解を積極的に行っていきたい。単級であるため、各学年の教科の指導内容や方法について話し合うことは少ない。しかし発達段階に応じて系統立てた学習が必要である。付けたい力やその指導方法について教師間で話し合う時間をできる限り設け、「チーム」として取り組んでいかなければならない。そこからも指導力の向上をさらに図り、今後も、「大滝小の子どもは全職員の手で」育てていけるように取り組んでいきたい。